



- 第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
講師/佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長
- 第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米えみさん ながのクラッセ会長
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/鷲沢幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事
- 第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水隆史さん フォトグラファーほか
常盤昭二さん CMディレクター
- 第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト
- 第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師/竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長【一級建築士】
- 第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授
- 第10回 命のバトンを渡す「ピオトップ」/長野市をピオトップワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜このみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長
- 第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
講師/針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回 長野ハルセイロ ー優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バドゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン
- 第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回 循環備蓄型の農業の実践ー宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みるー 平成21年6月3日
講師/塩澤研一さん(財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出陽子さん(同)ふきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回 信州の伝統から生まれる食文化ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師/宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋
- 第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっころしよ/代表理事
- 第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川了洋さん AC長野ハルセイロ新監督
- 第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石沢一男さん(有)田舎工房 代表取締役

- 第24回 3度目につかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務
- 第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属
- 第26回 Go to J ～Jを長野にーいよいよ地域決勝大会!～ 平成22年10月25日
講師/鈴木政一さん 長野ハルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
- 第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

- 第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野県隊長(第二次派遣隊)
- 第30回 江戸のエコロジスト ー茶 平成23年8月30日
講師/マブソン青眼さん 俳人・比較文学者

- 第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

- 第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸淳男さん 信越放送取締役相談役

- 第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営

- 第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武睦会 会頭

- 第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

- 第36回 すべてが一丸となって「ながのの宝もの」をJへ 平成24年4月24日
講師/薩川 了洋さん AC長野ハルセイロ監督

- 第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師/小宮山義光さん 日本野鳥の会長野支部会員

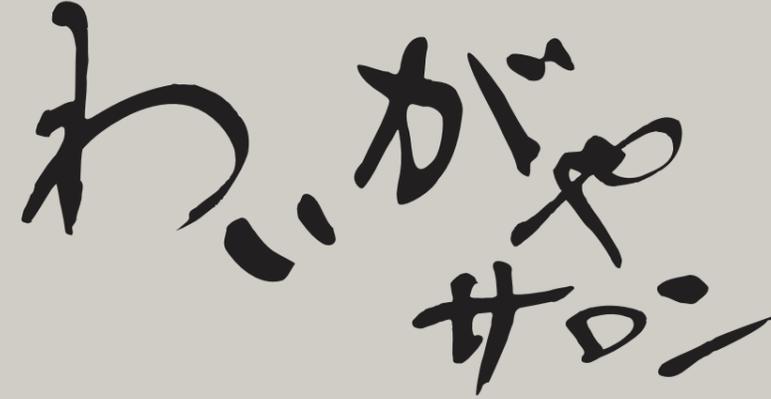
- 号外 門前まち花遊歩 ー牛に引かれて善光寺参りー 平成24年9月1日

- 第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法 平成24年9月27日
講師/塩澤研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事

- 第39回 善光寺参道と中心市街地のWi-Fi計画 平成24年10月25日
講師/俣田達男さん NTT東日本 長野支店長




 Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所
 〒380-0834長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
 TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
 www.nupri.or.jp
 e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol.40
2012.12



169系S52編成

第40回

しなの鉄道長野以北延伸と営業戦略

平成24年12月6日(木) 18:00~20:00

講師／山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911



やまだ たかし 1949年、長野市生まれ。2010年3月、長野県企業局長を最後に長野県を退職。同年6月より第三セクターしなの鉄道(株)の専務取締役に就任。長野市在住。しなの鉄道を利用して本社(上田)に通勤しているの「読書量が飛躍的に増えた」とのこと

たくても、ポスターを貼りたくても、そのスペースすらない。長野以北が開業すれば、長野駅は北に向かったの始発駅となりますので、何としても長野駅にしなの鉄道の拠点を実現したいと思っています。

開業15周年を迎えたしなの鉄道

しなの鉄道は長野オリンピック開催の半年前の平成9年10月に全国初の新幹線並行在来線として開業し、今年がちょうど15周年になります。その間、一度も大事故を起こしていないなど地域の足として順調に発展してきたと自負していますが、開業以来赤字が続き、5年で債務超過に陥りました。ちなみに当時年間運賃収入22億円のうち16億円が人件費。そこで駅の委託やワンマン化等々で経費削減を図り、平成17年に初めて黒字転換させ、以来、7期連続で黒字を続けています。累積債務もなくなり、ようやく一人前の会社になったということでしょうか。

では順風満帆なのか？実は課題も非常に多いんです。乗客数は開業以来きれいに右肩下がりで毎年20万人位ずつ減り、15年の間に200万人減。一方で車両の老朽化などが進んでいます。一般的には20年から30年位で更新だそうですが、ウチは40年もたせています。技術陣が丁寧に補修しているので使っているのです。というわけで、収入は減るのに更新コスト・支出は増えている。そういった中で、現在の最大の課題は、「第二の開業」ともいうべき長野以北の経営問題です。

なぜ長野以北の経営を引き受けたか

現在しなの鉄道の1日1km当たり平均乗客数が約7千人に対し、以北は約5千人、これが徐々に下がり3千人位になると見込まれています。県境に近づくほど利

北陸新幹線金沢延伸開業に伴い、JRから経営分離される信越線長野以北の並行在来線(長野―妙高高原 間)を第三セクター・しなの鉄道(株)が引き継ぎます。同社専務取締役・山田隆さんより2年後に向けた取り組みなどについてお話をお聞きました。

しなの鉄道の本社は、当初は長野県庁近くにありましたが、本社が鉄道沿線にないのはおかしいという声もあって、現在は上田市にあります。私は長野から我がしなの鉄道を使って通勤していますが、日々長野駅におけるしなの鉄道の存在感の希薄さを痛感しています。長野駅からの乗客が絶対的に多いわけですが、ご承知のように長野―篠ノ井間は形としてはJRの経営区間になっています。駅にパンフレットを置き



開業15周年記念マーク

用客は少ない。同時に日本有数の豪雪地帯としてコストもかかり、大変厳しい経営が予想される。やっと一人前になったのにまた厳しい要素を抱えることになるのではないかと、事実上他に選択肢がなかったとしても躊躇したのは事実です。最終的には国から赤字見込額を上回る支援をもらえることになって決断しました。国の支援が得られたのは東日本大震災がきっかけでした。国土交通省が有事に備え、貨物輸送としての鉄道維持を重く見、除雪費用も支援すること。これによって数字的には収支が見合うことになり、引き受けることにしたのです。

どうやって利用促進を図るか

長野以北の一番の課題は利用促進です。このことは現路線についても同様で、現在「増客作戦」なるものを会社をあげて展開しています。

そのキーワードは2つ。1つは「バリアの解消」です。本数や2次交通との接続など、鉄道に関する様々な不便感・バリアをできるだけ解消するという。また、事業者の努力だけでは限界もありますので、2つめのキーワードとして「地域との連携」を掲げています。特に駅はまちのステーションとして、まちづくりの1つの核として考えてほしいと市町村にお願いをしながら、地域と連携して地産地消など様々な企画を検討しています。こういったことを以北でも進めたい。

長野以北の場合、これらに加えて新たな経営戦略が必要だと思っています。例えば黒姫、妙高といった以北の観光スポットと新幹線の通る飯山や周辺の野沢などを1つのゾーンとして、これを新幹線やしなの鉄道などを使ってフリーパスで回遊する、いわば新幹線と在来線の相互利用を誘発するような営業戦略はどうかと思っています。これにブランド力のある軽井沢、小布施、長野などを加えるとさらに面白い。現在、各地で新幹線延伸後の広域連携のあり方が議論されていますが、しなの鉄道もこういったエリア戦略に積極的に参加していきたいと思っています。

新幹線と在来線の関係については、光と影というような言われ方もしていますが、私はよきライバルであり、それ以上にパートナーと捉えるべきだと思います。現地までは新幹線で便利に早く来てもらい、現地ではしなの鉄道などを使ってゆっくりと濃密に楽しんでもらって、全体としての満足度を高めてもらう、そんな関係でありたい。

今後は、鉄道にはもともとそれほど興味がなかったが、しなの鉄道が面白そうだから乗ってみたいとか、しなの鉄道の考え方に共感するから乗ってみたいというような方にも利用していただきたいと思っています。特にグランドジェネレーションといわれる団塊世代を中心としたシニア世代は旺盛な行動意欲、消費意欲を持っています。そういう方々などに乗っていただくために鉄道にどういった付加価値がつけられるか、今後ぜひ検討していきたいと思っています。

本国会で交通基本法は廃案になってしまいましたが、今、公共交通は転換期にあります。財源問題などがあり厳しいけれども、いろいろなことをやり、地域としなの鉄道がwin-winになる関係をめざしてこれからも頑張っていきたいと思っています。

会場からは「飯山線とも一体的にやっついていかないと効果が出ないのでは」「JRは長野―篠ノ井間をしなの鉄に」「乗車料金の帰属選択は乗客の自由に」などの意見要望が出されました。



長野―妙高高原の延伸部分も含んだしなの鉄道路線図



「電車は単なる移動手段ではない。*列車自体が観光地、にしたい」写真は169系S53編成

